



# 全国私立大学 FD連携フォーラム

News Letter No.18

## CONTENTS

P.2	ご挨拶
P.3	加盟校一覧／ 新規加盟校のご紹介（学習院大学）
P.4-5	2022年度前半期活動報告 （総会・シンポジウム）
P.6-7	2022年度後半期活動報告 （懇談会企画／幹事校・会員校ミーティング）／ 2022年度取組概要
P.8	入会のご案内／実践的FDプログラムのご案内



▶ 代表幹事校・地域担当幹事校【東日本担当】 立教大学

## ポストコロナ時代の大学教育への貢献

立教大学 大学教育開発・支援センター長  
小澤 康裕



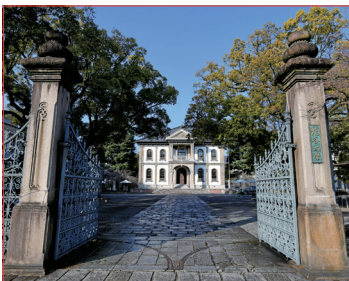
このたび中部大学から代表幹事校を引き継ぐこととなりました。立教大学では、2004年に設置された大学教育開発・支援センターが、教育の改革と改善を支援し、その充実と高度化に貢献する役割を担っております。設置以降、各学部や大学院等で行われる教育改善を先導し援助する役割を務めてまいりました。特に、導入教育、FD活動・授業評価など、全学的な教育改革・カリキュラム改善の情報センターとして機能しています。

コロナ禍にあって、当センターは、全学を対象としたFDや、学生の学修支援、授業改善のためのワークショップやシンポジウム等を実施してきました。また、その一方で、授業評価アンケートや教学データ集計、学生調査など、教育や学びの成果の測定を行って、コロナ禍の教育の状況を把握することに努めてまいりました。これらの実施を通じて得られた様々な知見については、当センターのウェブサイトをご覧ください。特に、コロナ禍における、遠隔・オンライン・オンデマ

ンドによる授業の経験は、様々な障害を乗り越えて教育を継続・高度化する機会を与えてくれたように思います。今後は、これらの知見を踏まえて、さらに新しい教授法を模索し、個々の学修者に合わせた学びの多様化や深化の方法を開発する必要があると考えます。

本学では当センターが中心となり、2008年のJPFF発足時より加盟し、その後2021年6月から地域担当幹事校、そして2022年から代表幹事校を仰せつかっております。今後の高等教育のあり方を展望するJPFFの役割は、コロナ禍以前にも増して重要なものとなるのではないのでしょうか。立教大学という一大学での経験は小さなものではありませんが、代表幹事校の務めを果たし、JPFFという場において各大学の教育や授業改善に関する課題を共有し、他大学の皆様との議論や交流を通じて、小さな経験を大きな教育改革の糧とできれば幸いです。

ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



▶ 地域担当幹事校【西日本担当】 龍谷大学

## FDおよび教学IRでの良き協力関係を

龍谷大学 学修支援・教育開発センター長  
藤田 和弘



龍谷大学では、個人・グループ、また各教学責任主体で行われてきた教育改善活動を集約して、大学全体の教育の質及び教育力の向上を実現するために、全学的なFD活動の中核機関として、2001年度に「大学教育開発センター」を設立いたしました。その後、2015年度に、大学教育開発センターは、スチューデント、グローバル、ナレッジの3つの機能別コモンズからなる「龍谷大学ラーニングコモンズ」の開設による学修支援環境の充実と、高等教育をめぐる動向の変化にともなうFDの拡大に対応するため、従来のFD活動に加え、全学的な学修支援を実施する「学修支援・教育開発センター」に改組しています。また、アカデミックライティングの学修支援組織として、ライティングサポートセンターを設置し、授業レポートから卒業論文までのサポートをしております。

現在の学修支援・教育開発センターの主な業務は、以下の通りです。

- 教育改善活動支援事業
  - 教学IR (Institutional Research) の推進
  - ICT活用教育の推進
  - アセスメントテスト
  - 学生による学期末の授業アンケート

### ●教育活動交流・研修事業

- FDフォーラム
- FD研修会

私は、2017年4月1日に、教学企画部長および学修支援・教育開発センター長に就任いたしました。理工学部での教務主任の経験やJABEE（日本技術者教育認定機構）の審査員の経験から、学長から任命されたのだと思っております。JPFFの会議に出席するまでは、大学コンソーシアム京都のFDフォーラムに参加したことがある程度の経験しかありませんでしたが、JPFFの会議に出席いたしまして、参加されている先生方や事務職員の方々の熱意に感動いたしました。それ以降、毎年の会議に出席し、普段お会いしない方々と意見交換ができるのを楽しみにしていました。なかなかFDや教学IRに関してフラックに意見交換をする機会に限られますので、JPFFの会議の意義は高いと思っております。今後、ぜひ、FDおよび教学IRについてより良い協力関係を築くことができると、ますますJPFFが発展すると思っております。会員校の教職員の方々は、ぜひ、このような機会を有効に活用していただきたいと思っております。

## 加盟校一覧

代表幹事校	立教大学		
地域担当幹事校	立教大学【東日本担当】	龍谷大学【西日本担当】	
会員校	関西大学	関西学院大学	國學院大學
	芝浦工業大学	創価大学	中央大学
	中部大学	同志社大学	法政大学
	明治大学	立教大学	立命館大学
	龍谷大学	早稲田大学	
	愛知大学	青山学院大学	学習院大学
	神奈川大学	関東学院大学	北里大学
	九州産業大学	京都産業大学	甲南大学
	神戸学院大学	国土館大学	上智大学
	専修大学	中京大学	帝京大学
	東京農業大学	東北学院大学	東洋大学
	南山大学	日本大学	福岡大学
	武庫川女子大学	名城大学	明星大学

50音順、全38大学（2023年3月現在）

## 新規加盟校のご紹介 学習院大学

## ◆全国私立大学FD連携フォーラムへの期待

本学は、精深な学術の理論と応用とを研究教授し、高潔な人格及び確乎とした識見並びに健全で豊かな思想感情を有する、文化の創造発展と人類の福祉に貢献する人材を育成することを理念に掲げています。その理念のもと、「学部及び大学院の教員に求められる教育、研究及び社会貢献等の諸活動に必要な能力の向上を図るための組織的な研修及び研究を実施する」という方針を掲げ、FDの推進を行っております。

本フォーラムの活動の中で、共通の課題等に関する情報交換、取り組み内容・成果の共有等が行われ、本学のFD活動においては、大学全体のFD活動が活性化されることを期待しています。



## ◆学内のFD実践紹介

本学では、これまでに様々なFD活動を実践して参りました。例えば、授業評価アンケートの実施・分析による授業改善と報告書の作成です。授業評価アンケートは、授業の質保証の一環として2006（平成18）年度より全学的に実施している教育改善のための取り組みです。同アンケートの集計結果は、各担当教員にフィードバックすると共に、IRオフィスにおいて、部門別・形態別に統計的に分析を行い、報告書としてとりまとめています。同報告書には、各部門から寄せられた「授業への取組み例」を掲載し、優れた取組みの共有を行っています。その他にも、高等教育に求められている内容や学内でのニーズに応じて、FD研修会、講演会、ワークショップ等を開催しています。引き続き、これらの活動を通して本学教員の能力及び資質の向上に資する取り組みを行いたいと考えております。

## 総会・シンポジウムを振り返って

2022年度の全国私立大学FD連携フォーラム（JPFF）総会ならびにシンポジウムが、2022年6月18日（土）にオンライン開催されました。

総会では、まず最初に司会担当の私が新規加盟校および退会校を紹介致しました。ここでは、新規加盟校である学習院大学の山本政人副学長にご挨拶頂きました。続いて2021年度の活動・決算報告を行いました。その後、2022年度から代表幹事校を引き継ぐ立教大学 大学教育開発・支援センター 小澤康裕センター長の進行により、2022年度の活動計画とその概要、年間スケジュール、および予算について報告と審議が行われました。さらに、2022年度及び2023年度の体制についても紹介があり、2022年度西日本地域担当幹事校を務める龍谷大学 学修支援・教育開発センター 藤田和弘センター長にご挨拶頂きました。

総会に引き続き開催されたシンポジウムでは、「新学習指導要領を踏まえた大学教育のあり方～2025年度入学生に向けた準備」をテーマとして掲げました。2022年4月から全国の高等学校で実施される新学習指導要領では、新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直しが行われ、知識の理解の質を高め、資質・能力を育む主体的・対話的で深い学びが重視されます。そこで、本シンポジウムでは、探究学習、教科横断的学習、大学教育改善等をキーワードとして、新学習指導要領に対する準備、および2025年度以降の大学教育のあり方について議論を行うこととしました。そのために講師として、文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教育課程企画室 室長 石田有記氏、(株)ベネッセアイキャリア 大社接続事業本部 大社接続営業部 部長 小田桐一弘氏、日本大学 文理学部 国文学科 特任教授 紅野謙介氏、静岡大学 情報学部 情報科学科 講師 遠山紗矢香氏を招き、講演やパネルディスカッションを行いました。

初めに基調講演として、石田有記氏から「高等学校学習指導要領について」と題して、学習指導要領改訂の考え方や概略をご説明頂きました。

次に、小田桐一弘氏からは「新学習指導要領を踏まえた

中部大学

大学企画室 高等教育推進部長 石田 康行

高校側の変化とこれからの大学教育の在り方」、紅野謙介氏からは「新学習指導要領の失敗をどのようにリカバリーするかー「ことばの教育」の再生」、遠山紗矢香氏からは「新しい教科「情報」と大学との互惠関係を目指して」と題して、ご講演頂きました。

4名の講師による講演の後には、私による進行の下、小田桐一弘氏、紅野謙介氏、遠山紗矢香氏によるパネルディスカッションを行いました。教員・職員問わず、参加者の皆さまからは活発に質問があがり、それに対する講師のコメント内容も大変示唆に富んだものであり、有意義な時間となりました。

最後に、2022年度代表幹事校である立教大学 大学教育開発・支援センター 小澤康裕センター長より閉会の挨拶があり、今回の総会およびシンポジウムを盛会のうちに終えることができました。

今回のシンポジウムには、37大学等から106名の方々に参加頂きました。オンラインでの開催方式も相まって、昨年度に引き続き例年の倍以上の方にご参加頂き、大変感謝しております。参加者からは「新学習指導要領の概要がよく理解できた」、「2025年度の新入生を迎えるにあたり、大学側の準備を進めないといけないことを実感した」等の好意的な声が多く寄せられました。

新学習指導要領への対応をはじめ、昨今の大学を取り巻く状況の変化は著しく、皆様方も私立大学の置かれる様々な状況乗り越えるための方策を真剣に思慮していることかと思えます。全国私立大学FD連携フォーラムの加盟大学はいずれもFD推進の先導的な大学であり、各大学間の連携による相乗効果は計り知れません。引き続き、本フォーラムの連携がそれぞれの私立大学の改革と高等教育全体の発展に寄与していくことを期待しております。

## シンポジウム次第

## ◆ 開会挨拶

石田 康行 教授（中部大学 大学企画室 高等教育推進部 部長）

## ◆ 基調講演

## 「高等学校学習指導要領について」

石田 有記 氏（文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教育課程企画室 室長）

## ◆ 講演①

## 「新学習指導要領を踏まえた高校側の変化とこれからの大学教育の在り方」

小田桐 一弘 氏（株式会社ベネッセアイキャリア 大社接続事業本部 大社接続営業部 部長）

## ◆ 講演②

## 「新学習指導要領の失敗をどのようにリカバリーするかー「ことばの教育」の再生」

紅野 謙介 氏（日本大学 文理学部 国文学科 特任教授）

## ◆ 講演③

## 「新しい教科「情報」と大学との互恵関係を目指して」

遠山 紗矢香 氏（静岡大学 情報学部 情報科学科 講師）

## ◆ パネルディスカッション

コーディネーター：石田 康行 教授（中部大学 大学企画室 高等教育推進部 部長）

パネリスト：小田桐 一弘 氏（株式会社ベネッセアイキャリア 大社接続事業本部 大社接続営業部 部長）

紅野 謙介 氏（日本大学 文理学部 国文学科 特任教授）

遠山 紗矢香 氏（静岡大学 情報学部 情報科学科 講師）

## ◆ 閉会挨拶

小澤 康裕 准教授（立教大学 大学教育開発・支援センター センター長）



総会の様子



中部大学 石田 康行教授

## 2022年度懇談会企画 開催

JPFF代表幹事校・地域担当幹事校（立教大学・龍谷大学）

2023年1月27日（金）に、JPFF加盟校から59名の方に参加いただき、第12回懇談会がオンラインで開催されました。この懇談会は各大学におけるFD活動の取り組みの改善・発展の一助とすることを目的としています。当日は事前に設定した3つのテーマごとに5～7名のグループに分かれ、各大学における課題やグッド・プラクティスを持ち寄って課題や改善策についても議論しました。全体報告会では、各グループで出された意見を報告し合い、情報共有を図りました。

### 【実施概要】

日時：2023年1月27日（金）14：00～16：30

実施方法：オンライン開催

### 【グループディスカッションのまとめ】

#### テーマA：コロナ禍3年間の経験を踏まえた授業およびFD活動の取り組みと課題

コロナ禍も3年目を迎え、多くの授業は対面で実施されるようになり、遠隔授業の経験を踏まえた、新たな対面授業が求められています。また、最近ではDXといった言葉に表されるようにデジタル技術の活用がWithコロナ/Afterコロナ時代の新たな大学教育を創造していくうえでの重要な鍵になっています。このテーマではコロナ禍3年間の経験を踏まえた各大学における授業およびFD活動の取り組みと課題等を共有しました。

授業においてコロナ禍で有効であったツールと課題、今後利用が検討されているサービスについて情報共有がありました。また、複数の大学から、学生の声を大学教育の運営に反映する仕組みが紹介されました。FD活動については、コロナ禍にオンライン化が進んだ一方、多くの大学で参加者の固定化や参加率の伸び悩みが見られることから、運営方法の工夫や改善策について意見交換がなされました。

#### テーマB：データを活かしたFD・教育改善の取り組みと課題

多くの大学においてデータを活かしたFD・教育改善を目的とした取り組みの始まりは、授業評価アンケートでした。

その後、入学時・卒業時調査、学修行動調査、卒業生・就職先調査、アセスメントテスト、全国学生調査などの各種調査の拡がりや、最近ではラーニングアナリティクスといったようなビックデータを用いて学生一人ひとりの学修履歴を活用する事例も見られるようになりました。こうした多様なデータを学生の学修行動、授業の質向上、学修成果の可視化、教学マネジメント、情報公開などに活用している取り組み、今後活用できる可能性を探るべく、各大学におけるFD・教育改善の取り組みと課題等を共有しました。

複数の大学で各種調査の回収率が低いことへの課題認識があり、データ収集のための工夫について事例が共有されました。調査結果のデータはあくまでツールであり、調査等の意義や価値を高めるためには教員・学生へのフィードバックによるコミュニケーションが重要ではないかという問題提起や、過重な調査を避けるためのマネジメントの重要性も確認されました。IR推進部局は様々な部署・学部の教職員がネットワーク型で連携することが有効ではないかという意見がありました。

#### テーマC：FD支援部局（大学教育センター等）の取り組みと課題

各大学におけるFD支援部局では、大学の状況や課題に応じて、ミッションや事業内容、人員構成や予算、期待される役割や環境の変化への対応等、さまざまな面で多様である一方で、大学教育の質の改善と向上を図る、といった目的においては共通しています。今、Withコロナ/Afterコロナやデジタル活用といった大きな環境の変化に適応した新たな大学教育を創造していくための課題に取り組もうとしている、もしくは既に取り組んでいる大学も多いことから、事前アンケートの回答結果に基づいて、FD支援部局の取り組みと課題等を共有しました。

FD支援部局の組織については、FDを専門とする教員の不在や職員が兼務であること等、教職員の配置の課題が挙げられました。これらの組織の持ち様により、FDに関する企画立案の難しさ、全学的なFDに対する理解がなかなか得ら

れないという課題につながる例もみられました。学修成果の可視化を背景として、授業単体からカリキュラムレベルにおける支援が求められるようになったという観点で深い議論が行われました。



## 幹事校・会員校ミーティング報告

### 1. 2023年度総会・シンポジウム 開催日程について

2023年度の総会・シンポジウムを2023年6月17日（土）13：00より立教大学 池袋キャンパスで開催することが報告されました。総会に先立ち、幹事会を12：00より開催する予定です。なお、実施形態は【対面を基本としながら、シンポジウムを配信する一部ハイブリッド形式】とし、各校からの対面参加者数は2～3名以内とする見込みです。情報交換会の開催の有無は3月末日までに改めて通知します。

### 2. 2023年度 実践的FD プログラム オンデマンド講義サービスの運用について

実践的FDプログラム オンデマンド講義サービスの運用や申し込み方法について説明がありました。

### 3. 事務局（メディア総研）との契約更新について

全国私立大学FD連携フォーラムの事務局業務を委託している「メディア総研株式会社」との契約更新について説明がありました。

## 2022年度 取組概要

### 2022年度 臨時幹事会・臨時総会

日 時：2022年4月26日（火）14：00～15：00  
形 式：オンライン

### 2022年度 幹事会

日 時：2022年6月18日（土）12：00～13：00  
形 式：オンライン

### 2022年度 総会・シンポジウム

日 時：2022年6月18日（土）13：00～16：30  
形 式：オンライン

※感染状況を鑑み中部大学での対面開催は見送りとなりました。

#### ◆2022年度シンポジウム

テーマ：「新学習指導要領を踏まえた大学教育のあり方～2025年度入学生に向けた準備」

◆基調講演 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教育課程企画室 室長

石田 有記 氏

◆講演① (株)ベネッセアイキャリア 大社接続事業本部 大社接続営業部 部長

小田桐 一弘 氏

◆講演② 日本大学 文理学部 国文学科 特任教授

紅野 謙介 氏

◆講演③ 静岡大学 情報学部 情報科学科 講師

遠山 紗矢香 氏

#### ◆パネルディスカッション

中部大学 大学企画室 高等教育推進部 部長

石田 康行 教授

(株)ベネッセアイキャリア 大社接続事業本部 大社接続営業部 部長

小田桐 一弘 氏

日本大学 文理学部 国文学科 特任教授

紅野 謙介 氏

静岡大学 情報学部 情報科学科 講師

遠山 紗矢香 氏

### 2022年度 代表幹事校ミーティング

日 時：2022年10月7日（金）14：00～15：30  
形 式：オンライン

### 2022年度 幹事校・会員校ミーティング

日 時：2023年1月27日（金）13：00～14：00  
形 式：オンライン

### 2022年度 懇談会企画

日 時：2023年1月27日（金）14：00～16：30  
形 式：オンライン

テーマA：コロナ禍3年間の経験を踏まえた授業およびFD活動の取り組みと課題

B：データを活かしたFD・教育改善の取り組みと課題

C：FD支援部局（大学教育センター等）の取り組みと課題

## 入会のご案内



全国私立大学FD連携フォーラムは、全国の中規模以上(学生数8,000名以上)の私立大学が連携し、全国の高等教育の質の向上を目指し、活動しています。本フォーラムでは、高等教育の質の向上に資するため、加盟校間での情報共有や意見交換を促進しています。

ウェブサイトでは取り組みの概要や、加盟校のFD活動についてご紹介しております。詳しくは下記ページをご覧ください。

URL: <http://www.fd-forum.org/fd-forum/>

入会を希望される場合には、ウェブサイト「入会のご案内」から「入会届」をダウンロードの上、事務局まで郵送、メール、FAXのいずれかでお送りください。

※フォーラム運営に係る費用は、会員校の年会費で賄っております。

(年会費:5万円(2023年3月現在))

※入会に関するご質問がございましたら、事務局までお問い合わせください。

## 実践的FDプログラムのご案内

実践的FDプログラムとは、教員が自らの授業を専門分野と教育学の観点から省察することができる知識、技能、態度、特にアクティブラーニングを実践する能力を修得する研修プログラムです。

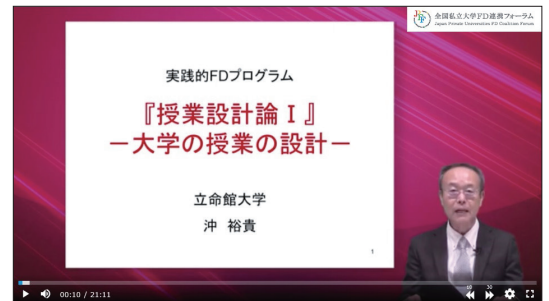
本プログラムは、教員の4つのアカデミック・プラクティス(教育、研究、社会貢献、管理運営)に対して、

- ① 教育学をはじめとした系統的な理論のオンデマンド講義
- ② 授業技術やコミュニケーションスキルを育成するワークショップ
- ③ 個々の教員ニーズに応える日常的な教育コンサルテーション

から構成されています。

私立大学には、クラス規模の大きさ、教員の持ちコマ数の多さ、学生の学力と学習意欲の多様性など、多くの困難な教育条件が存在します。たとえば、各大学では、新任教員研修において本プログラムを利用することを通して、大学教員に求められる教育力量と職能を育成し、大学教育の質を保証することが可能となります。

各大学の対象者や実施目的の違いによって、講義(オンデマンド)や講座(ワークショップ)等を選択し、様々なプログラムを作ることが出来ます。詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。



### JPF会員校

[http://www.fd-forum.org/fd-forum/html/fd\\_application.html](http://www.fd-forum.org/fd-forum/html/fd_application.html)

### JPF非会員校

[http://www.ritsumei.ac.jp/itl/assets/file/campus/vod\\_annai\\_hikameiko.pdf](http://www.ritsumei.ac.jp/itl/assets/file/campus/vod_annai_hikameiko.pdf)

### 利用申込について

利用期間は最長1年間(当該年度内)となります。【上半期受付期間】2月1日～4月30日 【下半期受付期間】9月1日～9月30日  
上記のウェブサイトより「利用申込書」ならびに「受講者情報登録用紙」をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、受付に記載のメールアドレスまでお送りください。

### 受付

立命館大学 (事務局:教育・学修支援センター 担当部署:教務課)

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL:075-465-8304 FAX:075-465-8311 e-mail:fd71cer@st.ritsumei.ac.jp

## 全国私立大学FD連携フォーラム事務局

メディア総研株式会社 〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-110F TEL:03-6206-3030 FAX:03-6435-0801 e-mail:jpff@mda.ne.jp